宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像像会
〒811-35　福岡県宗像郡玄海町
電　話　(0940－62－1311代)
定価　一年送料共　1000円

甲戌（きのえいぬ）の年頭にあたり

宗像大社
宮司　養父　守

輝かしい平成六年を迎え、謹んで新年の御慶びを申し上げます。

年頭にあたり、皇室の弥栄と国家の隆昌、併せて氏子崇敬者の皆様方の御繁栄と御健勝を心より御祈りいたします。

旧年中は、氏子崇敬者皆様方の真心からなる御協賛により、御除を以ちまして、当大社恒例の諸祭儀が総て恙なく斎行され、また数多くの神賑行事も無事盛大に執り行うことが出来ましたことに対し、深く感謝し厚く御礼申し上げます。

昨年は、異常気象、自然災害、経済不況、政権交代と、厳しい激動の年ではありましたが、一方、皇太子殿下の御成婚、また二十年に一度の第六十一回伊勢神宮式年遷宮の執り行われたことに意義深い、目出度い年でありました。

全国民斉しく待ち望んだ皇太子殿下、雅子妃殿下の御結婚の儀は、六月九日、宮中賢所大前で厳かに、古式ゆかしく執り行われましたが、当大社でも、この日時に合わせ、氏子崇敬者多数の参列の下、御成婚報告祭を斎行し、また、この御慶事を後世に伝えるべく、境内におがたまの木を植え「皇太子殿下、雅子妃殿下御成婚奉祝記念植樹」の石碑を建立いたしました。

昨秋、伊勢神宮では、十月二日夜に内宮、五日に外宮の遷御の儀が恙なく斎行されましたが、千三百年の歴史の重みを刻む御遷宮は世界に全く例を見ない、我が国固有の伝統神事であり私も参列の光栄に浴し、荘厳極まりない重儀を目のあたりに拝しまして、恐懼、感銘を深くいたしました。

伊勢地方では、西の殿地を「金座（かねざ）」、東の殿地を「米座（こめざ）」と呼び、今回の御遷宮では西方から東方へ御遷りになりましたが、「米座」の二十年は、心の時代で落着いた穏やかな世の中になるという言い伝えがあるそうです。

御遷宮によって、伊勢の大神様、そして八百万の神々が霊力を強められ、その御神威により、日本の国が若返えり、国民もまた、みづみづしい若さを取戻して明るい社会、豊かな国造りを目指して発展していくことを祈ってやみません。

伊勢神宮では、昨年、内宮、外宮と別宮荒祭宮、多賀宮の御遷宮を終えられましたが、今年は十二別宮の御遷宮が行われます。二十年前の第六十回式年遷宮の折には、特別のお取り計いにより、別宮伊佐奈岐宮、伊佐奈弥宮の古殿の御譲与を受け、解体移築して、当大社境域に第二宮、第三宮の復興が実現いたしましたが、往時を回顧して感慨無量なるものがあります。

御承知の通り、当大社は沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮からなり、玄界灘に浮ぶ二つの島に、それぞれ沖津宮、中津宮の神域を持つ雄大な神社であります。中世には、沖津宮の御分霊を第二宮、中津宮の御分霊を第三宮として内陸辺津宮境域にお祀りし、辺津宮を第一宮とする三宮一体の祭祀が行われていましたが、その後廃絶されていましたのを、中世の姿に復興したものであります。

沖津宮は、玄界灘の孤島沖ノ島に鎮座し、田心姫神を祀る神社ですが、沖ノ島は海の正倉院として名を知られる古代祭祀遺跡の宝庫であります。全島が当大社の所有で人家は無く、当社神職が、十日乃至二週間の交代で一人で勤務していますが、厳寒の季節も毎朝海中禊で身を清め、島の中腹にある本殿で祭典を奉仕しております。その他、無人灯台や、不法入港船の監視、通報等の公的業務も行っていますが、現代版防人の島ともいえましょう。

平素、沖ノ島は玄海の荒波に隔てられて渡島は容易ではありませんが、毎年五月二十七日（日本海々戦記念日）に限り、全国から参拝団を募り現地大祭を斎行しています。この行事には遠く北海道、東北からも参加され、約二百名程で渡島全員帆をして祭典を執り行っております。一昨年から神湊と大島間の大型連絡船「しおかぜ号」を傭船し、安全快適な渡航が出来るようになり、参加者に喜んでいただいていますが、沖ノ島は宗像祭祀の原点であり、常にその神厳性を損なうことなく、祭祀の厳修に努める所存であります。

また、三次に及ぶ沖ノ島祭祀遺跡学術調査により出土しました祭祀奉献品は十二万点に及び、その総てが国宝、重要文化財に指定されていますが、これらの品々は、千数百年の間、雨ざらし日ざらしの状態で放置されていましたので、その修復保存事業が、去る昭和五十二年から東京国立博物館で施工されていました。年次計画により、国庫補助を受けて着々と進められていましたが、漸く昨年夏終了いたしました。千葉県佐倉市の国立歴史民族博物館には、特に沖ノ島コーナーの一室が設けられ、数多くの祭祀品が見事に展示されていますが、これらの品々は総て当大社文化財のレプリカ（複製品）であります。

沖ノ島出土品は、古代史学、考古学、宗教学上、掛け替えのない一級資料として高い評価を受けていますが、その保存管理には万全を期す所存であります。

一昨年は、重要文化財指定の四千三百五十巻に及ぶ色定法師書写一筆一切経の四半世紀に亘る修理事業が完了し、共に貴重な文化財を後世に継承する責務の一端を果し得ましたことは大きな喜びであります。

更に待望の「宗像大社文書・第一巻」が昨春、上梓刊行の運びに至りました。第一巻は、重要文化財指定の宗像文書八巻を網羅した史料集であり、川添昭二、瀬野精一郎、山口隼正の三教授が、公務の傍ら、多年に亘り編纂執筆いただいた労作であります。

本書は、天皇皇后両陛下皇太子殿下、各宮家に献上申し上げ、更に神社、学界関係者に広く配布いたしましたが、各方面から多くの賛辞が寄せられ面目を施しております。本書の編纂にあたっては、特に先生方にお願いして、釈文の他に、読み下し文、語句の詳しい注解、文書内容の大意を付していただき、精巧な撮影による影印本を別冊として添付し、本編との対照の便に供しましたが、他にあまり類を見ない、至れり尽くせりの画期的な史料集となりました。東京の出版社、吉川弘文館では、学生や、一般の方にも、古文書解読研究のための好個の書籍として是非頒布したいとの要望があり、これを了承して現在同社より有料で販売されていますが極めて好評とのことです。

第二巻の編纂については引続き先生方に執筆を依頼していますが、重要文化財指定の出光佐三氏奉納文書を中心に、貴重な中世文書集を刊行の予定であります。

これらの中世文書は、歴代の宗像大宮司により保存継承されてきましたが、最後の大宮司宗像氏貞公の墓所が、既報のとおり、昨秋十一月に見事に整備されましたことは大きな喜びであります。公の墓石は、永年の風雨にさらされて近年頓に風化が進み、墓碑名も定かではありませんでしたが、関係者の方々と相謀り多くの浄財を得て、墓石を覆う宇堂と、併せて顕彰碑が完成いたしました。戦国争乱の世に、大宮司として祭政両面の重任を負い、神郡宗像の安堵と維持経営にその生涯を捧げられた氏貞公の偉業を末永く顕彰、御霊の御平安を心よりお祈り申し上げる次第であります。

年も暮れ、そして迎春。毎年のことながら、大晦日から元旦に変わる瞬間、一瞬にして清々しい気分になるのは、日本人特有の感性でしょうか。狩猟や遊牧の民は時間に追われず、悠然として、暮だ、正月だと慌てる必要もありませんが、四季の変化に富む自然環境での稲作民族である日本人は、季節に生活のリズムを合わせて暮らしてきました。一年の時間の中で、最も大きな節目をつけるのが暮と正月の一線であり、この刻を境に、口々に「おめでとう」と挨拶を交わし、自然に笑みがこぼれます。「おめでとう」という言葉は「メデ（愛）イタシ（甚）」の約で、目出度い、芽出度いは当て字です。もともとは「いとおしく、すばらしい」という意味であり、互いの幸せ、喜びを願う祝福の言葉であります。

一陽来復、新しい年が皆様方にとって希望に満ちた良い年でありますよう心より御祈り申し上げます。

今年は元旦から十日まで穏やかな天候に恵まれて連日初詣の参拝者が多く、御社頭は非常な賑わいをみております。これも偏に宗像大神の広大無辺な御神徳の発揚によるものと恐懼し、また氏子崇敬者皆様方の真心からなる御協賛によるものと深く感謝いたしております。

本年も皆様方のご鞭撻、御協賛を御願い申し上げまして年頭の御挨拶といたします。

二月十一日には
国旗を掲げ
建国記念日を
祝いましょう

敬神生活の綱領

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

平成六年　1994

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号　電話(代)761-3331

トヨタカローラ博多株式会社
取締役社長　久恒鎮造
福岡市博多区豊2丁目3番50号　電話(代)441-2111

トヨタオート北九州株式会社
取締役社長　卜部典明
北九州市八幡西区皇后崎町14番6号　電話(代)642-2111

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　久保田圭哉
福岡市博多区東光1丁目6番13号　電話(代)411-1121

人へ。社会へ。地球へ。
TOYOTA
福岡県トヨタ販売店グループ

トヨタビスタ福岡株式会社
取締役社長　喜多村禎勇
福岡市中央区薬院1丁目5番8号　電話(代)714-6661

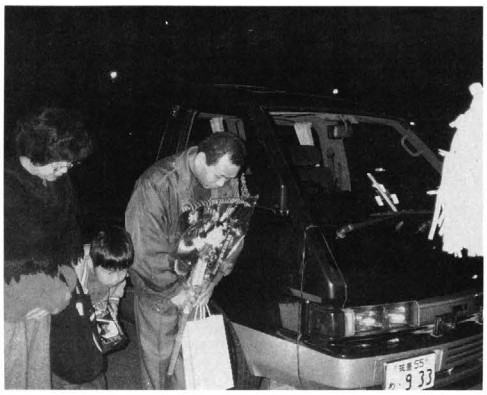
トヨタカローラ福岡株式会社
代表取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区長浜2丁目1番5号　電話(代)712-7111

トヨタオート福岡株式会社
代表取締役社長　金野宗次
福岡市博多区竹下2丁目2番31号　電話(代)411-5511

トヨタビスタ北九州株式会社
取締役社長　大石勇
北九州市八幡東区桃園2丁目1番1号　電話(代)662-8400

平成六年の黎明に祈る

参拝者の賑わい続く三ヶ日



平成五年を送る大祓式が午後五時より神門前で多数の参例者出席のもと厳粛に斎行された。

数分前まで降っていた冷い雨も上り、正月準備のとどのった境内に切りヌサの小紙幣が寒空に舞う様子が一段と美しい。

引続き除夜祭が斎行され平成五年を送る。

思えば、皇太子殿下の御成婚、第六十一回伊勢神宮式年遷宮と意義深き年であり、又、連立政権による政治が始まり、大激動の年であった。大神の御加護により大過なくこの年を今送る事が出来る御神徳をたゝへる宮司の祝詞が静かな大晦日の夜風に流れる。

この祭典を以って一ヶ年の祭事も終った今、迎春の諸準備整った境内には人影もとだえ万物がしずかに黎明を迎へる時を待っている。

午後十時半、神門前の大庭燎に火が入る、うす明りの中に参拝者の人影が浮かんで来る。時が進むにつれ、一番参りを待つ人々の波はふくれた。午前零時新春を告げる神殿の大太鼓の音とともに開いた神門は参拝者の波でゆらぐ様である。

拝殿前は瞬時に黒山の人だかりとなり、新年の安全を祈る人々がいつまでも続き左右の授与所、福みくじ舎前にと続く人の波は境内を埋めつくした感がある。

一心に祈る人々の流れは、誰定めるでもない進行法規で進む様に警備の消防団員の方が『今までにない人の流れですよ、不況の風が強いのですねェー祈る人々の姿がちがいますよー』……と云っておられるのが印象深い。本殿、祈願殿、儀式殿の太鼓はたゆることなく続き人の波も切れることがなかった。

元旦、初日が雲間より輝く頃、本殿にて元日祭が斎行され、平成六年の祭事が始まった。今年は三ヶ日はもちろん、仕事始めの四日、五日から十日迄雨らしき雨もなく、穏やかな天候続きの正月であった。

平成六年は「戌」歳である。皇紀二千六百五拾四年、「甲戌」年、この今年の干支・戌に因んで昨今の世相を、ある大手実業家は、年頭の辞で＝『犬馬は難く、鬼魅は易し』＝の感がある。画を描く場合、犬や馬のように常に見馴れていて誰でも知っているものは、それだけ批評も多く、描きやすいようで実は難しい。これに対し、鬼や魅（怪物）のように誰も見たこともないものは描くのが難しいように感じるが、批判できる人もいないからかえって易しい、という意味である。

世間ではややもすると、このような純粋であり本物であるものを犬馬のように見馴れたものとして尊ばない傾向がある。つまり、当り前のことを当り前に実行することはかえって困難であり、だからこそ非凡なことであるにかゝわらずこれを偉とせず、特異の事をなす人をもてはやす嫌いがある。我々も一見平凡であり、あまりに聞き馴れ、言い馴れた理念は易しと錯覚してはならない。

昨今の激動期にこそ異行を戒め、本来の為すべきことに全人格的なものでぶつかっていくという気概をもって、当たり前なるがゆえに非凡の正道を一歩一歩着実に進まなければならない。

……と述べられている。

新春を祈る人々の姿に何か例年と異なるものが感じられるのも、国内外の情勢の混迷度が一段と増し、先進国、経済大国にふさわしい理念を求める民の真心が、祈る姿ににじむのであらうか、大変な年、さらなる激動の年、前進の平成六年が大過なく無事である平安をともに祈り迎えた新春であった。

御礼

当大社恒例の大祓式斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

平成六年一月吉日

宗像大社
宮司　養父　守

崇敬者各位

◇

献米袋配布並に取纏め御礼

平成五年度宗像大社献米奉仕斎行にあたり、市・郡氏子会各位への献米袋配布並びに取纏めにつきましては年末年始お忙しい中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。

平成六年一月吉日

宗像大社
宮司　養父　守

宗像大社氏子会
会長　出光　太蔵

宗像大社氏子会評議員
宗像大社氏子会総代　各位

◇

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成六年　元旦

宗像大社社務所
宗像大社氏子会
宗像大社沖中両宮奉賛会

宗像大社氏子会
会長　出光　太蔵
副会長　倉元　清彦
〃　早川　邦雄
〃　目原　徳夫
〃　寺嶋　忠夫
監事　楠田　繁男
〃　黒石　満
〃　古屋敷清文
〃　新海　伍郎

宗像大社責任役員会
代表役員　養父　守
責任役員　出光　昭介
〃　布江彌之助
〃　河野　幸人
〃　山本　三吾
〃　占部真太郎

宗像大社沖中両宮奉賛会
会長　目原　徳夫
〃　占部　文男
〃　宮本登志丸
〃　古賀　芳人
〃　福原　鶴夫

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成六年　元旦

宗像大社社務所

宮司　養父　守
権宮司　太田　可愛
禰宜　升谷　勝良
〃　山田　幸雄
〃　神島　定
〃　柴田満智子
権禰宜　大野　宗康
〃　田中　満江
〃　刀禰ますみ
〃　石橋　清寿
〃　山守　直美
〃　堤　宏
〃　東　弘
〃　竹本百合子
〃　高向　正秀
〃　門司　成人
〃　大西　長生
〃　玉木　正之
〃　吉武　隆則
〃　渡辺　秀丸
〃　花田　清巳
〃　杉山　安彦
〃　深田　仁
〃　宇都宮　勤
〃　井上　光生
〃　伊藤　佳和
〃　調理員　広橋　康子
〃　菓津　幹之
〃　原　カズ子
〃　松本　肇
〃　阿部　和代
学芸員　石松　摂子
〃　吉武　洋子
巫女　石松　摂子
〃　管理員　占部チヨカ
〃　荻野　和美
〃　入江　累恵
〃　嘱託　堺　豊三郎
〃　白石　泰代
〃　藤川　宜重
〃　本田　千佳
〃　石井　忠
〃　麻生真由美
〃　河窪奈津子
〃　安部　三奈
〃　警備　松崎孫四郎
〃　副島　順子
〃　橘　正信
〃　力丸さなえ
講師　中村　吾郎
〃　小田みどり
〃　小方　百枝
〃　吉川　昌恵

平成六年　1994

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

日産サニー福岡販売株式会社
取締役社長　向野武敏
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号
電話（代）092－411－4132

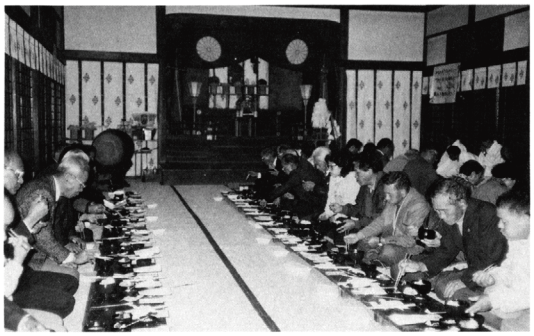
日産プリンス福岡販売株式会社
取締役社長　楠見記久
福岡市中央区平尾3丁目5－3
電話（代）092－531－9561

日産ディーゼル福岡販売株式会社
代表取締役　小町登志夫
福岡市東区多の津1丁目39番4
電話（代）092－629－1831

NISSAN

―― 今年も安全運転を心掛けて下さい ――

古式祭・鎮火祭斎行



古式祭は毎年厳しい寒さの中行われる神事として有名で、地元氏子の思い出の中にも強いが、近年は暖冬の為、それ程寒さを感じなくなった。今年の十二月十五日の当日もその暖冬の気候の中で古式祭が斎行された。

古式祭は今年最後の収穫感謝のお祭りで約八百年の伝統を誇り、神前には九年母、菱餅で作ったお菓子、さらに江口の浜より上がる海草の「ゲバサモ」という特別の神饌をお供えして、氏神様に対して一年の勤労を感謝しつつ地元田島地区の当番氏子が「お座」を催し、お宮の火で炊いたひとつの釜の食物を氏子の方々がお神様と一緒に頂く行事であり又、お座は招福の集いとも言われている。この様に神人和楽することが出来る、年に一度の集会であることに古式祭の意義がある。

まだ夜が明けぬ午前六時養父宮司以下神職、田島区長、江口区長、当番班々長宗像大社氏子会々長等が参列し祭典を開始。宮司が、五穀豊穣を感謝し延命招福を祈る祝詞を奏上、続いて古歌、千早振、第一宮（第二宮・第三宮）ノ木綿襷、掛ケテノ後ハ楽シカリケリを奉唱、玉串拝礼を行い滞り無く祭典を終了した。

祭典終了後、清明殿にて午前六時三十分よりお座の一番座が催され、御膳には忌穂の立てられた御飯、汁なます、田楽等が準備され参列者は新延に座し、式次第に従って御膳を頂いた。又、お座では一座ごとにくじ引きも行われ当選者には神宝翁面、干支鈴、神札等が授与される。一回の座に五十名が参列し例年五番座で終了するのであるが、ここ二、三年参列者が増え本年も昨年に引き続き六番座迄催された。

同日午前十時より鎮火祭が斎行された。この祭典は「ほしずめの祭」と称され当大社拝殿にて養父宮司が火打石により忌火を鑽って点火、ひさごに水をもって火に振り注ぎ、赤土をかけその上より川菜で覆う鎮火の儀式が古式に則り執り行われ、迦具土神の荒びを鎮め、その災を受ける事無く新年を迎えることができるよう祈念して、祭典は滞りなく終了した。

蘇った中津宮の心字池

改修工事を翼賛会・青年団が奉仕

昨年末、当宮境内心字池の改修工事が、沖中両宮翼賛会（会長＝丸井房芳・十五名）並びに大島村青年団（団長＝遠藤三保）の奉仕により行われ、新春には新たに蘇った心字池を泳ぐ鯉が参拝者の目を楽しませた。

心字池の改修は、以前から池底の崩壊、周囲池垣よりの水洩れ等が認められ、早急に改修の要ありとして翼賛会の事業の一つに上げられていた。

工事は十一月九日午前中に、丸井会長以下数名が協議し、年末完工を目標に取組むことで決定、当日午後より早速工事に着手した。先ず翼賛会員、青年団員総出で池の水を抜き、泳いでいた鯉や鮒は大島小学校のプールへ移送。続いて堆積土やヘドロの除去を行った後、池底のコンクリートを剥がし乾燥を待った。池底が概ね乾燥すると、グリ石、バラスを敷き、コンクリートを打って池底を完成、さらに周囲の池垣の目詰めを行い、十二月四日に改修工事は完了した。

心字池工事は漁の合間を縫っての作業で、翼賛会、青年団各位の献身的な奉仕により行われ、着手以来一ヶ月という当初の想定よりも短期間で終了した。

池底のコンクリートが乾燥すると早速水を張り、コンクリートのあく抜きを行い、大晦日に大島小学校のプールより鯉を戻した。約二ヶ月振りに、天の川の真清水が張られた古巣の心字池へ戻って泳ぐ鯉も、蘇った池に満足そうな様子であった。

翼賛会は、平成二年の真奈井参道修復工事を始め、当宮の諸事業に多大な功績を残しているが、今回の奉仕でまた一つ大きな足跡を残した。

今回の心字池改修工事に御奉仕、御尽力いただいた沖中両宮翼賛会、大島村青年団各位並びに真鍋組、大島小学校へ紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

〔宗像氏貞公宇堂・顕彰碑建設記〕(1)

郷土を誇る人々の心情の結晶

承福寺住職　埜村要道

四十二才の若さで病没した氏貞公には世継ぎなき故に、名門を誇り、朝臣を認じた宗像家は豊臣秀吉の命によって断絶させられました。

氏貞公は当時、豊後大友の勢と敵対し、攻防かけ引きの最中にあったので、自らの死に際して「わが死のことを三年間秘すべし」といいおいて没したと言われています。重臣らはこれを守り、病中と偽り、夜中にひそかに遺骸を竹籠に納め、長臣、占部右エ門が背負い居城の赤間・城山より上八の承福寺に運び、参禅の師であった十三世瑞林和尚の引導によってこのお塔の地に葬られたと伝えられています。

承福寺は今も父君、隆尚菴殿正氏公が祀られ、元亀二年（一五七一）、氏貞自ら玄蘇和尚を請して父隆尚の二十五回忌法要を営んでいるゆかりの寺です。玄蘇和尚は、隆尚菴主から承福寺八世、そして博多聖福寺に迎えられました。その後幕府の命を受け日本国を代表して朝鮮との和睦の特使となり朝鮮に渡り己酉条約を成立させ国交を回復させたり、明（中国）との外交にたずさわり国際的に活躍したほどの和尚でした。大檀那であった氏貞公を失った承福寺は以来衰微しつつも菩提寺として代々このお塔を家臣すじの占部家をはじめ、地元民と共に祀り守ってきた歴史があります。

だが、四百有余念の星霜を経て、塔石は風化磨損し、崩壊寸前の状態でした。昭和六十一年は氏貞公四百年忌にあたりました。これに先立ち塔周辺石垣直しと参道石段整備を行い、承福寺開山忌に併せ、承福寺本堂において宗像大社大宮司様はじめ、玄海町長、教育長等の参席を得て法要を営みました。その後毎年、宗像大社と承福寺で交互に墓前祭を復活させてきました。その参列者の中より塔の保全化の声が起こり、ここに宇堂建立と顕彰碑建立の発願がなされたのであります。

また幸い、玄海町教育委員会より文化財「史跡」の認承があり、早速、長年お塔護持に直接携ってきた占部家の人たちに無理を言い、たのんで発起人会を発足してもらい勧募活動に入りました。

新聞掲載、ラジオを通して呼び掛けるかたわら、宗像大社様、隣船寺様、増福院様はじめ、地元の人たちの協力の他、宗像の自然・歴史・文化保存研究会の吉武謹一先生、玄海町文化協会の永島憲一先生、玄海町民族資料研究会の日並文夫先生のご支持、ご助言を得て、町をはじめ、宗像市郡の多くの方々のご替助を賜ったことは望外の喜びでありました。

これはやはり宗像の一時代を画し、宗像の歴史に大きく名をなす氏貞公の遺徳と共に郷土を愛し、郷土を誇る多くの人々の心情がここに一つに集ったような気がします。事務局に携わった承福寺住職として、心より感謝申し上げる次第であります。これをもって不十分ながらも、完成に至るまでの経過報告と致します。

平成六年　1994

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

九州三菱自動車販売株式会社
取締役社長　藤野三記夫
福岡市中央区薬院三丁目二番三号
電話（代）〇九二(521)一四一一番

福岡ダイハツ販売株式会社
取締役社長　内山学
福岡市博多区東比恵四丁目二〇番一号
電話（代）〇九二(411)一三三〇番

九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長　宮崎慶一
福岡市東区箱崎ふ頭五丁目四番一七号
電話（代）〇九二(641)八一八一番

法人社団　日本自動車連盟九州本部
本部長　金子宜嗣
福岡市早良区室見五－一二－二七
電話（代）〇九二(841)七〇〇〇番

宗像大社歌会 俳句作品集（三七〇）

ひかりケ丘　南　萬里
孫すわる知恵ひとつ殖ゆ小春かな

藤　沢　井上　玄洋
凩や一望の海滾りたつ

自由ケ丘　細川　絹子
冬山をかっと見据える武者絵凧

福岡中央　力丸　玄風
個展とは裸婦ばかりなり冬ぬくし

田　熊　力丸　一郎
力瘤光る力士の初暦

日の里　花田いつ枝
狛犬を撫でて艶増す初詣

福　間　二宮　末子
正月の美人サロンで生れ来る

津屋崎　井浦　良介
装いの清しさ砂利の柔らかし

上西郷　高橋辰次郎
菊の香や老人施設の習字かな

若　松　井手　清隆
早梅や視野の限りの海ひかる

福　間　森　清
調髪の光る四日の勤め人

第三九一回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎 選
毎月末日〆切

田　熊　鷲頭かつ代
風寒き夕べ聞ゆる棟梁の手許たしかに釘を打つ音
（評）一読して明瞭。その音のみに絞って此れ迄に表現した力量を思う。響き良く鉄鎚の音が聞こえる。

大　島　目原　節子
苅干の小積は遠く連なりて秋日あまねき高原を越ゆ
（評）起伏もつ高原に連なる苅干の塚が目の辺りに照る。『越ゆ』の結句も力強く適確だ。

大　島　越智　治子
波止内にゆりかもめの群寄り添いてはげしき風の過ぎるを待てり
（評）鴎と鴎の語りの中に作者も共に加わる。風を避けて屯する百合鴎の詩情にひかれる。

福岡東　桜井　ツ子
ひと夜さに黄葉ことごとく振り払ひ銀杏大木は仙のごと立つ

大　島　河野　ヱ子
島に嫁ぎ四十五年を経し丘に親しく古里の栗山のぞむ

福岡東　清原　絹代
雨ふくむ朝のめざめに山鳩の声の一つが低く透り来

名古屋　小田　喜一
バイパスに寸断され旧道は行き来の絶えて草野となりぬ

大　島　杉田　禮子
好天の日なれど出漁見合わすとふ海も異変のこの年暮るる

吉　留　白木うめの
粒あらき霧の山野に昇り来し日がかがやきて淡き虹立つ

福　間　本松　宣子
夜の道急げば急ぐわが影の長くなり短くなりて纏はふる

若　松　高橋　忠実
野ほとけの何かさみしきその顔は刻みし人の心なるかな

大　島　屋形トミエ
防波堤に並ぶ水銀灯は満潮の波に砕けて煌き揺るる

武　丸　中村さつき
チェンソーの音響かひて忽ちに枯松倒れあたり明るし

赤間ケ丘　松本　澄子
三千院彩ある光り放つ苔露含みゐて木洩日のさす

徳　重　石松や寿子
農業を取り巻く外の荒き波越えて守らん祖父よりの生業

土　穴　瀧口　敦子
山中を越えてたどりし湖に鴨の大群ひしめき遊ぶ

名古屋　小田　留子
ふたりして歩くを楽しむ街角に早朝喫茶のコーヒー匂う

福　間　山田よし子
丹精を籠めて作りしグリンサワー五本の茎に花は溢れる

福　間　池浦千鶴子
添乗員の透る声にて集まればホテルのロビーに百合の一盛

自由ケ丘　津江富美子
落葉焼く煙の白く立ちのぼり空いや高く秋深みゆく

鐘　崎　安永　久子
身の竦むおもひかの日の警報とも普賢岳に噴く火の音を聞く

池　田　小田しめの
冬の陽の温み集めしガラス戸に動かぬ蜂のまなこかなしき

自由ケ丘　細川　絹子
背の高き並木の根方に輝ける万両の実の朱鮮やけし

池　田　小田　いせ
岸の辺の自然は工事にはぎ取られ川閉ざされて獄舎に似たり

赤間ケ丘　中武　アサ
姉夫婦喜寿となりゐて姑の白寿を祝ふと言へる愛しき

宗像大社一ヶ年祭事表

一月一日	元旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遥拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月二十五日	沖・中両宮春季大祭
四月二十九日	昭和祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
	風鎮祭
九月二十三日	皇霊殿遥拝式
十月一日	海上神幸「みあれ祭」
十月一～三日	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十月十九日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十五日	古式祭並鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓式並除夜祭
毎月一日 十五日	月次祭

賀正

玄界灘を望む風光明媚な
格調高いシーサイド・コース

西日本開発株式会社
玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町
電話〇九四〇-六二-二二三三(代)

節分祭ご案内

新春を迎え、皆様方におかれましては益々御清栄のことと存じ上げます。
扨て、当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しますので御参拝下さいますようご案内申し上げます。

記

一、日　時　平成六年二月三日　午前十時
　　祭典終了後、豆打式
一、会　場　当大社祈願殿

平成六年一月吉日
宗像大社社務所

各　位

一月二十三日～二月六日迄、厄除祈願祭を左記により終日執り行います。

記

一、祈願祭典場　於儀式殿
一、祈願初穂料　一人　五〇〇〇円
一、授　与　品　福升一箇（福豆入一合）
　　厄除守一体・開運札一体

賀正

松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ

池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町
電話〇九四〇-三二-三五四四(代)

平成六年 **新年おめでとうございます** 1994

○玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

魚屋旅館	電話〇九四〇-六二-二一二二番
みなと荘	電話〇九四〇-六二-二二五五番
玄海旅館	電話〇九四〇-六二-〇〇一一番
高嘉旅館	電話〇九四〇-六二-一二二一番
ニュー千鳥荘	電話〇九四〇-六二-〇〇六八番
大島屋旅館	電話〇九四〇-六二-〇五五五番
松風荘	電話〇九四〇-六二-〇一二〇番
泉館旅館	電話〇九四〇-六二-〇〇三五番
魚庄	電話〇九四〇-六二-三三五五番
川口屋旅館	電話〇九四〇-六二-〇〇四八番
はまな荘	電話〇九四〇-六二-〇五〇〇番
神湊スカイホテル	電話〇九四〇-六二-三八〇〇番